

制作・問い合わせ先

# 埼玉県高校図書館フェスティバル 実行委員会

ホームページ ▶ <https://shelf2011.net/>  
X ▶ [https://x.com/shelf\\_20110219](https://x.com/shelf_20110219)  
Gmail ▶ [saitama.ichioshi@gmail.com](mailto:saitama.ichioshi@gmail.com)

広告

## 大切な本の補強や補修ができる 道具と材料のセットです

公共図書館で 長年愛用されている 商品です!

このセットがあれば!

- ☑ 本をキズや汚れ、紫外線から守れる!
- ☑ 破れたページをキレイに補修できる!
- ☑ 背や小口部分、のどの補強・補修ができる!

商品の詳細はこちら



本を保護する用品いろいろ!

ブックカバー・ジェイピー 楽天市場店

<https://www.rakuten.co.jp/bookcover/>

制作協力(パンフレット印刷): 社会福祉法人 埼玉福祉会

埼玉県の高校図書館司書が選んだ

# イチオシ本

## 2024

2025年2月発表!  
Take Free!

## まだまだあります! イチオシ本

借しくもベスト10には入りませんでした、司書イチオシの本たちです。

笑う森(萩原浩/新潮社)

- ◆森で迷子になった5歳児。「くまさんがたすけてくれた」は本当なの?
- ◆とにかく一気読み! その場所で同じ時間を共有していたそれぞれの人たちが、心にかかっていたものから解きほぐされ、本来の自分自身の姿にもどっていく「光」を感じる物語。
- ◆終盤でASD児のマヒトが森で過ごした過酷な1週間の全貌が明らかになった後、作中を通して無口であることが印象的だったマヒトが流暢に話し始めた場面で心を打たれた。

カラフル(阿部暁子/集英社)

- ◆差別とは何か? 綺麗ごとだけじゃない世界に立ち向かう高校生たちがまぶしい!
- ◆最高ににやにやできる物語!! 車いすユーザーの少女と、走ることを諦めた少年のボーイミーツガール! だけにとどまらず、知らない世界を知っていく、荒んだ心が再生されていく、そんな姿が眩しすぎる。

バッタを倒すぜ アフリカで(前野ウルト浩太郎/光文社)

- ◆論文発表までの道のりの険しさ。リジェクト(不受理)の辛さ。苦労話も多いけれど、何より研究を仕事にすることの喜びにあふれている1冊だと思う!
- ◆前作とセットで読んでほしい。
- ◆バッタ研究の本に違いないのですが、理系の「リ」の字がない人間が読んで隔々まで面白い! こういう方が「読書は大事」と書いてくれるのはありがたいと思います。

あなたの言葉を(辻村深月/毎日新聞出版)

- ◆「毎日小学生新聞」の連載記事ですが、高校生でも大人でも読み応えがあります。誰でも直面するようなテーマがひとつ4ページで、辻村さんの物事の捉え方が簡潔に綴られている小気味良い本です。
- ◆わたしはわたし。あなたじゃない。(鴻巣麻里香/リトル・モア)
- ◆自分が無理せずに他人とうまく付き合うコツを教えてくれる本です。
- ◆「バウンダリー」とは、「わたしはわたし」「あなたはあなた」という心の境界線のこと。人間関係の悩みやしんどさを感じる人に、ほどよい人との距離を教えてください。

いま抱えている苦しみを軽くするためにも、誰かを苦しめないためにも読んでほしい1冊。

- ◆中高生にありがちな事例をもとに、考えながら自分を守る方法を学べる。スルーしない。意識することが大事。
- ◆君と宇宙を歩くために1(泥/田彦彦/講談社)
- ◆社会が作り出す、低学力だと障害があるとかの生きづらさに絡め取られずに、自然体で仲間になって宇宙に視線を向けて世界を広げている主人公たち。自分の中の無自覚な偏見に気づかされました。
- ◆ヤンキー高校生の小林君といわゆる発達障害の宇野君。現実世界ではなかなか交わることのない2人のような気がするが、それぞれ壁にぶつかりながらも前向きに生きていこうとする姿に心動かされる。
- ◆主人公たちの友情や成長をみると、自分も頑張ろうという気持ちになります。

ナースの卯月に視えるもの(秋谷りんこ/文藝春秋)

- ◆より良い看護を目指したいと奔走する、頑張り屋な咲笑の姿にあたたかい気持ちになった。医療現場の描写がリアルで、医療系を目指す高校生に読んでもらいたいと思う。
- ◆淡々とした文体がじんわり沁みます。
- ◆さくらのまち(三秋健/美業之日本社)
- ◆ひらがなのタイトル「さくらのまち」。「さくら」とは、少女の名前? それとも、桜の花? 予想外の展開には意表を突かれます。
- ◆痛く悲しい冬の話。けれど舞台は「さくらのまち」。苦くて冷たい、追憶の青春ミステリーをぜひ堪能あれ!

SNSのモヤモヤとの上手なつきあい方(Poche/あさ出版)

- ◆今一番一緒に過ごすのはスマホという人も多いと思います。SNSでのモヤモヤ事例を挙げ、それに対する考え方のアドバイスが書かれています。
- ◆LINEに既読が付いたのに返事が無い、インスタのフォロー、SNSのわかっていないようで難しい付き合い方に寄り添った回答。
- ◆女の子たち風船爆弾をつくる(小林リカ/文藝春秋)
- ◆名前のない「わたしたち」として書かれることで、この女の子たちは物語の中の人物ではなく確かにそこにいて、今も生きている人なのかもしれないと感じられた。

高校生活の強化書(西岡 啓誠, 萩原 俊和/東京書籍)

- ◆勉強・部活・受験・進路・人間関係など高校生活での悩みを解決してくれる必携書。
- ◆勉強、部活、趣味、バイトと忙しい。進路や人間関係の悩みも尽きない。そんな高校生活を乗り切り、後悔せず青春を過ごすための必読書! 将来振り返った時に良かったな、と思えるように。

元素楽章(揚子鶏々/化学同人)

- ◆元素の世界観にひたる男子生徒が続出。
- ◆まるで物語やビジュアルブックを読むように一冊読むことができます。一緒に科学の知識もついてお得ですね。

銀河の図書室(名取佐和子/美業之日本社)

- ◆「図書室のはこぶね」続編。イーハート一部に属する宮沢賢治好き仲間と過ごす思い出作り。
- ◆「図書室のはこぶね」の野亜高校が再び舞台。宮沢賢治を読み返したくなります。
- ◆気分が晴れずふさぎ込んだ時に読んでほしい。優しく背中を押してくれる物語。

一線の湖(砥上裕将/講談社)

- ◆一作目より話に深みが出ているように思える。
- ◆これを読んで、2冊で一つの話なのかな、と思ったので。お母さんのお別れの会は、涙なしでは読めなかった。
- ◆文章が素敵です。文章の向こうに絵が見えます。
- ◆マンガでたのしく! 国会議員という仕事(赤松健/筑摩書房)
- ◆読みやすさに加えて、マンガ・ゲーム施策についての内容が多いので政治に対する若年層の心理的ハードルを下げられそうなどころもよい。
- ◆国会議員の具体的な仕事を知ることができて良い。
- ◆ジーンが願いをかなえてくれない(行成薫/光文社)
- ◆6編すべて読後感がよい。主人公もストーリーも抱く感想もバラバラなのに、共通して少し前向きになれる力がある。ぜひ読んでほしい。
- ◆なかなか願いを叶えてくれないランプの魔人や、ある日夫が推しのアイドルに見えるようになってしまった主婦など、不思議なお話が6編、どれもおもしろくて読みやすいです。

カフネ(阿部暁子/講談社)

- ◆辛いときに周囲に助けを求めたり、人を頼るのが苦手、という生徒に読んでほしいです。
- ◆大限界一オタク用語辞典(小出 祥子/三省堂)
- ◆すべてのオタクに読んで欲しい!! 二次元も三次元もカバーしています。オタクのみならずは界隈の用語を見てニヤニヤしましょう! 非オタクの人はオタク語の辞典としてご活用ください!
- ◆オタクの内輪ネタ上等! という心意気が表紙から駄々洩れです。
- ◆二人一組になってください(木爾チレン/双葉社)
- ◆女子高の卒業式を舞台にしたデスクゲームで、怖い展開を求めている人に薦めたいです。クラス内での序列やグループ、体育の2人1組でいつも余る人...もしかしらどこか覚えがあるかもしれません。
- ◆大阪借星学園キム子部(長谷川晶一/KADOKAWA)
- ◆興味・関心をもち、地元企業とコラボしながら、未知の分野に挑む高校生達の姿に好感を覚えました。
- ◆大阪借星学園には日本で唯一の「キム子部」がある。創部1年でまさかの漬物グランプリ受賞。さらにオリジナルキム子の商品化。どこにでもいる普通の高校生の努力と成長の記録。
- ◆選挙、誰に入れる?(宇野重規/Gakken)
- ◆政治や暮らしなどさまざまなテーマが図解で解説されていて、授業などに活用できた。
- ◆ファラオの密室(白川尚史/宝島社)
- ◆謎解きしながらエジプトも理解できる!
- ◆パンダを飼ったらいくらかかる?(北澤功/日経ナショナルジオグラフィック社)
- ◆動物の話としてもお金の話としても◎。
- ◆なぜ働いていると本が読めなくなるのか(三宅香帆/集英社)
- ◆働いていると、特に忙しくしていると本が読めない! 読みたいのに読めない! そんな謎を労働、読書の面から切り抜いているという視点がとても面白かったです。
- ◆人文学系の大学を受験する高校生に特に薦めたい一冊です。内容そのものに加えて取り上げられている数多くの本への動線にもなり、読書のモチベーションを高めてくれます。
- ◆ツミデミック(一穂ミチ/光文社)
- ◆短編集なので読みやすいです。しかしどの話も身近にあり得る苦しさを疑似体験する感じで、後味はじわじわ...
- ◆アルプス席の母(早見 和真/小学館)
- ◆高校球児が主人公の小説は多くありますが、こちらは球児を支える親の目線の小説です。野球部の話に限らず、保護者もまた、いろいろなところで子どものために戦っているんだと思うと胸が熱くなります。
- ◆人販の新興高校野球部を舞台に、甲子園を目指す球児の母親を主人公にした物語。まさに母親たちの熱闘甲子園。
- ◆竜が呼んだ娘(柏葉幸子/講談社)
- ◆閉ざされた村から出られる方法はたった一つ。10歳になって竜に選ばれること。選ばれた少女ミアの成長物語。
- ◆夜と跳ぶ(額賀澤/PHP研究所)
- ◆オリンピックイヤーの今年だからこそ、この本を! スケートボードが題材になった中高校向けの小説になっているのはめずらしいと思います。

- ◆ここで紹介しきれなかったイチオシ本たちは、埼玉県高校図書館フェスティバルホームページに掲載しています。詳しくは <https://shelf2011.net/> をご覧ください。

10	愛も金もない高校生が知るべき進路ガイド	石野露
9	けんこの小説紹介	長瀬 龍
8	中学生から知りたい パスチナのこと	長瀬 龍
7	君はもう生きるか	長瀬 龍
6	死んだ山田と教室	金子玲介
5	おしこそうたんセンター	長瀬 龍
4	成瀬は信じた道をい	宮島米奈
3	sprng	宮島米奈
2	地雷クニコ	長瀬 龍
1	本を読んだことがない3歳がはじめて本を読む	長瀬 龍

イチオシ本

これはイチオシ本なのだ!

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本

10周年記念・公式YouTube

これはイチオシ本なのだ!

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本

10周年記念・公式YouTube

ここで紹介しきれなかったイチオシ本たちは、埼玉県高校図書館フェスティバルホームページに掲載しています。詳しくは <https://shelf2011.net/> をご覧ください。